

第4学年〇組 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（〇）
授業者

- 1 主題名 みんなの場所を [C 規則の尊重]
- 2 ねらい 約束やきまりについて多面的・多角的に考える学習を通して、周りの人が守っていないくても約束やきまりを守る意義やよさについて理解し、社会の約束やきまりを守ろうとする態度を育てる。

教材名 「日曜日のバーベキュー」（出典「新しい道徳」4年 東京書籍）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

約束やきまりは、自分たちを拘束するためのものではなく、学校生活や社会生活を安全かつ安心して過ごすことができるようにするためのものである。それなのに、自分勝手に反発したり、理屈をつけて守らなかつたりすることが誰にでもある。そこで、本時を通して、学校生活や社会生活を営む上で約束やきまりが必要な意義を考え、それを理解し、自ら約束やきまりを守って行動しようとする態度を育てる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、真面目でやさしく働き者の子が多い。その中で多くの児童は、約束やきまりを守ることの大切さを理解し、学級の約束や学校のきまりなどを意識し行動している。しかし中には、約束やきまりを面倒なものとして捉え、破ってしまう児童も見受けられる。また、周りが約束やきまりを破っている場合に、しっかりと自分の考えをもって友達に伝えたり、自分はきちんと守って行動したりすることができる児童は少ないのが現状である。

下記のアンケートの結果をみると、本学級の多くの児童が「道徳の時間を好意的に捉えている」ことがわかる。その理由として「心が落ち着く」「意見がいいやすい」「発見がある」などの言葉を挙げており、道徳の時間が児童の心を耕すのに成果を挙げていることがわかる。「約束やきまり」についての項目では、多くの児童が「大切にしている」と答えている。これは先に述べた担任の考えとずれが生じている。この点を授業の切り口の一つにしたい。

アンケート項目	はい	いいえ
あなたは、道徳の時間が好きですか。	30	1
あなたは、約束やきまりを大切にしていますか。	29	2

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、キャンプに出かけたぼくがごみ捨て場にごみを捨ててに行くが、実はそこはごみ捨て場ではないことに気がつく。「ごみをすてるな！」と書かれているにも関わらず、きまりを守らない人たちが作ったごみの山ということが分かり、ぼくは困ってしまうという内容である。そこで、ごみ捨て場ではないことを知った場面を取り上げ、このときのぼくの心の中を探っていく中で、児童の約束やきまりに関わる多様な感じ方や考え方を引き出していく。そして、話合いを通して、社会のきまりは進んで守らなければならないこと、友達との約束は守るべきであるということをもとの生き方と合わせながら考えさせ、道徳性を高めたい。

今回の授業は、本校の教育目標「かしこく」を特に意識している。そこで指導に当たっては、「捨てる」「捨てない」両方の気持ちの間で揺れる主人公に共感させ、表面だけではなく心から納得して、進んで社会のきまりや友達との約束を守り、行動していきたいと思わせられるよう、授業を構成したい。そしてそれを少しずつ行動に移そうとする態度を育てたい。

4 ユニバーサルデザインの視点

視点8 集中・注目のさせ方 2.4 注意を促す指示や合図が明確であるか。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 *評価の視点 〔評価方法〕
導入 (5分)	1 約束やきまりについて発表する。 ○ どんな約束やきまりがありますか。	・廊下は走らない。 ・業間休みは外に出る。	・約束やきまりについて考えることで、ねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
展開 (35分)	2 「日曜日のバーベキュー」を読んで、話し合う。	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【主な登場人物】 ぼく（主人公）、みきお</p> <p>【スタートの条件・状況】 ぼくとみきおはごみの山に向かって、ビニールぶくろを投げる。しかし、そこには立てふだが。</p> </div>	
	(1) 自転車のかごのごみを片付けているお母さんを見て、ぼくはどんな気持ちだったか。	・ひどい。 ・だれがやったんだろう。 ・自分勝手な人がいるな。	・中心発問での話し合いを深めるため、前提となる自分勝手な行動に対する憤りの気持ちを押さえ、確認する。
	(2) ごみ捨て場ではないことを知ったぼくは、どんなことを考えたでしょう。	・持ち帰った方がいいかな。 ・捨てちゃおうかな。 捨てる ・みんなが捨てている。 ・持ち帰りたくない。 持ち帰る ・ごみ捨て場ではないから。 ・迷惑だから。	<p>【話し合い活動を意識した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な感じ方や考え方を小グループでの意見交換を交え、吟味する。そして、きまりの意味の理解をさせ、自己の生き方を考えさせていく。〔教師の観察〕 <p>【評価の視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学校生活や社会生活を快適に過ごすために約束やきまりがあることを理解して発言している。〔発表〕
(3) 川原に捨ててきたごみを思い浮かべながら、ぼくはどんなことを思ったでしょうか。	・ぼくが捨てたごみはどうなるんだろう。 ・ごみを捨てずに持ち帰ればよかった。	・自転車のかごのごみをかたづけお母さんとぼくが捨てて来たごみを片付ける人を重ね合わせる。	
終末 (5分)	3 教師の説話を聞く。 4 自分のこれまでの生活を振り返り、道徳ノートに記入する。 ○ これまで、約束やきまりをどのように考え、守っていたか。		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、気付いたこと、考えたことを記入する。 ・児童が振り返りやすいよう声かけを行う。 <p>* これまでの自分の考えについて振り返ることができる。 〔道徳ノート〕</p>

6 評価の視点

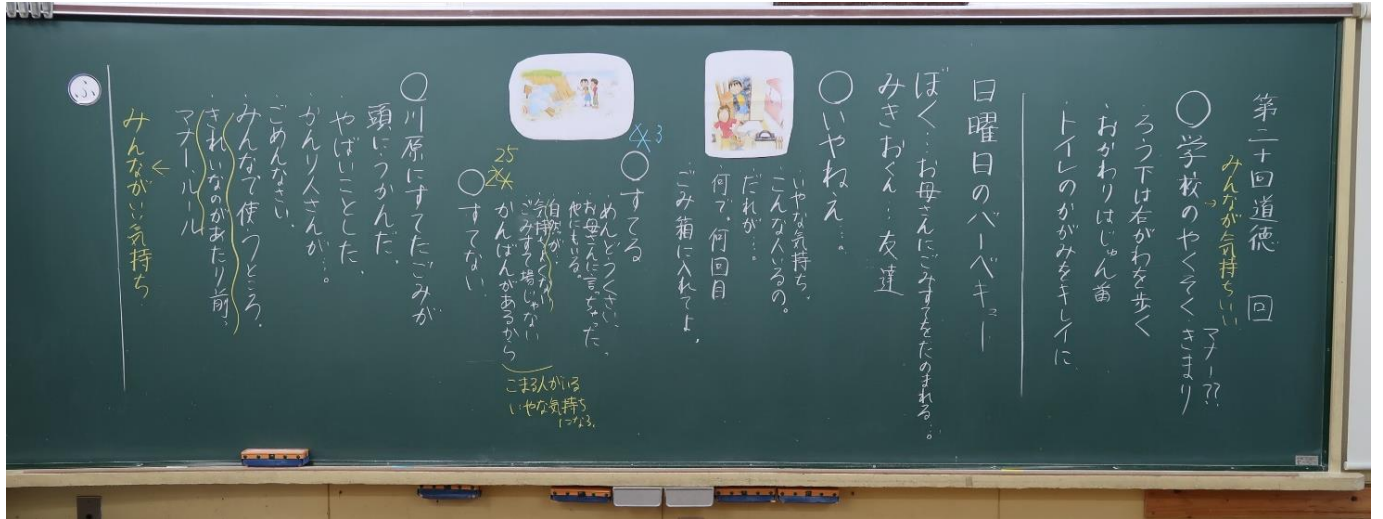
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・ごみ捨て場ではないことを知ったぼくの心の中を多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・学校生活や社会生活を快適に過ごすために約束やきまりがあることを理解して発言している。

7 板書写真



9 道徳ノートより

